

# 2020 度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

## 1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の6項目を保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

## 2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2 歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

## 3. 学年別目標・計画

0 歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1 歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2 歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

#### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<b>1. 保育目標の理解と周知</b> 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	概ね職員の理解があり進められてきたと感じる。今年度はコロナ禍となり、予定通り進まず、その場で立ち止まって考えて進むということが多く、予定が未定ということで、保育目標の理解と周知が「概ね」の理解に留まったのだと考える
<b>2. 保育内容</b> 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	クラス会議で、園児の情報の共有、そして昨年度から行っている「保育 WEB」を活用し、明日からの保育の見通しを考え、保育を進められることができた。リズム遊びに対して課題がある部分があるので、次年度は意識的に行えるようクラス会議を通じて計画し、実行できるようにしていく
<b>3. 保育環境</b> 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	クラス会議を行うことで、立ち止まって考えることができ、保育環境に意識を持ち、改善意識がでていた。ただ、職員一人ひとりの個人差に偏りがあるので、役割やクラスでのルールを決め、統一的な意識の元、環境への取り組みを行っていききたい
<b>4. 行 事</b> ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	コロナ禍により、今まで通りの行事を行うことができなかった。その中で、「ねらい」に立ち戻り、一つひとつ考えられたことで、新たな視点で行事を行えることができた
<b>5. 食 育</b> 保育の一部となるような活動を行っているか	コロナ禍により、できること、できないことがあり、難しさを感じた年になった。また、職員のマスクにより、口を一緒に動かすことができず、悔しい思いをした。ただ、コロナ禍であっても感染症対策を踏まえ、0歳児の食事中のみマウスガード・フェイスシールドをしての食事介助を行うことができた
<b>6. 職員の役割・資質向上</b> 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか	園外の研修には、ほとんど行くことが出来なかった。その代わりに、在宅勤務中に本などで知識を深めることができ、またそれを園内で発表する機会を作るなどの園内研修を行うことができ、質への担保ができた
<b>7. 特別支援教育</b> 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができているか	当該園児についての情報の共有については、共通理解のもと支援体制を整えることができた。保護者とも密に連絡をとり、当該園児のよりよい環境のための取り組みを行うことができた。2019年度に比べ、コロナ禍により外部研修に参加することができなかった。
<b>8. 保健・安全指導</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができているか	避難訓練は計画に基づいて実施することができた。 アレルギー対応については、仕組みとして不十分な点があり、給食担当と話し合い、より良い仕組みの対応方法に変更することができた。また、アレルギーに対する職員への意識改革を研修を介して行うことができた

評価項目	取り組み状況
<b>9. 保護者との連携・情報</b> 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り組むことができた。 園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして情報を職員間の共有を図ることができた。また、改善が必要なことに関しても、迅速に行うことができた。 保護者への行事参加については、コロナ禍により、ほとんど行うことができなかった。その為、メール配信・ブログ等での発信をたくさんし、新たな取り組みとして YouTube での動画配信を行うことができた
<b>10. 子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができているか	コロナ禍のため、地域の方が参加できるイベントを行うことができなかった。違う方法として、YouTube で園舎紹介、近隣の公園紹介など、WEB を通しての発信を多く行うことができた
<b>11. 組織としての運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	今まで集まって話し合いができたこと、他クラスとの連携など、コロナ禍により難しさを感じた1年となった。その中でも、小集団で集まる、短い時間でも集まるなど、工夫しながら「組織」を踏まえた取り組みが行えた
<b>12. 特徴的な教育</b> 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	この項目は、コロナ禍で一番難しさを感じるものだった。自園だけでなく、他の部署への感染を考えると、交流をすることができなかった

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育環境	クラス会議で、明確な役割、ルールを決め、実行していく
2. 行事	今年度のことを踏まえ、できること、できないことを考え、子どもにとって、保護者にとっての「最善の利益」を考え、計画し、実行していく
3. 食育	感染症対策を踏まえつつ、行えることを模索し、実行していく
4. 職員の役割・資質向上	園内研修に力を入れ、行っていく
5. 保健・安全指導	アレルギーについて折りをみて、啓蒙していく
6. 保護者との連携・情報	YouTube をベースに、たくさんの発信を行っていく
7. 組織としての運営管理	経験年数がバラバラな職員同士の交流を深めていく

2021年2月14日